

第2回 名寄市立大学在り方検討委員会

日時：令和7年2月20日（木）

18時00分～19時25分

場所：名寄市役所名寄庁舎 4階第一委員会室

参加者：天野委員、家村委員、和泉委員、臼田委員、尾崎委員、木全委員、
佐藤委員、猿谷委員、清水池委員、竹澤委員

事務局：石橋総合政策部長、菊池大学特命課題参事

1 開 会

石橋総合政策部長より開会。竹澤委員はオンラインでの参加となる。

2 委員長挨拶

今回は、高等教育における国の動向、名寄市立大学の概要について確認した。本日は次第にある議事3点についてご議論いただきたい。

3 議 事

(1) 道内大学の類似分野の状況について 事務局より説明

委員：道内の関係する4学科全体では看護系を除き定員を割り込んでおり、今後名寄市立大学もこのような状況になると感じる。全国的な傾向なのか、道内大学に限った傾向なのかは判断できないが事実を受け止めた。2025年度の出願状況では、看護の志願者は旭川市立大学を上回っている。しかし、社会保育は募集定員を下回っている。社会的には需要が高い保健医療福祉系の学科だが、志す学生が少なければ、その少ない学生に選ばれる名寄市立大学の在り方を検討する必要を改めて認識した。

委員長：旭川市立大学看護学科の受験者が減少した要因何か？また出願状況分析は如何に

委員：管内には旭川医科大学・旭川市立大学・名寄市立大学に看護学科があり、前年度の倍率などから、増減の波がある。名寄市立大学は看護師に加え保健師・助産師資格が取得でき、国家試験合格率が100%である実績から受験生から選ばれたのではないか。

(2) 地域と名寄市立大学の状況と期待 事務局より説明

委員：資料P10・11の実績額について、無料公開講座と依頼出張講座で自治体負担額が異なる認識でよいのか？

事務局：その認識で問題ない。

委員：昨年度の公開講座は、オンライン含め5回で483人の参加をいただいた。その他にも、コミュニティケア教育研究センター主催のセミナーを実施するとともに、教員は各種委員会の委員として活躍しており、延べ130を超える委員会から委嘱を受けている。その実績は冊子「地域と住民」やHPで明示・公開している。

委員長：委員から事務局を通して旭川市立大学の学生に対するアンケート調査結果を共有いただいた。アンケート結果や旭川市立大学の状況含めて、情報共有をお願いしたい。

委員：アンケートの印象について、旭川市立大学は永山にあり旭川駅周辺までバスで40分程度かかるため、暮らしが不便と回答した割合が20%を超え、名寄市立大学学生の2倍であった。また、卒業後の定着率についても、出身地に近く地域に就職する割合が名寄市立大学の方が高い結果である。また、就職先選考で重視するポイントが名寄市立大学は①やりがい、②就業地域③給与水準であったが、企業初任給の上昇や物価高の影響などから旭川市立大学は①給与水準となっているが、社会情勢により学生の意識は流動的であると考ええる。旭川市立大学は公立化して、地元より市外・道外出身者の割合が増加し、学生の意識や学力に変化が生じている。大学設置自治体として学生の地元定着化は重要であり、18歳人口激減に備え学生募集の方策を再検討する必要がある。また、名寄市立大学は国家資格取得とするのか、インターンを増やすのか、民間資金を呼び込んだ取組を推進するのかなど特色をどうしていくか。公立大学として地域貢献は必須で、大学が自ら地域に出向き連携することも重要であることから、旭川市立大学は市町村との連携協定を増やし、地域貢献を見える化している。今後、これまで以上に時代に合わせて柔軟な対応が求められる。

委員長：旭川市立大学は距離的に近く、学科構成も似ていることから、大学間

連携も重要であるが差別化が学生確保にも非常に重要になると思う。

委員：過去5年間の卒業生の動向に、道北地域との関係、大学の特色が出ている。大学での資格取得は重要であるが、実習先が少なく市外にも協力いただいている。実習生も戦力になるし、学生も知見を広げることにつながる。北海道立の施設でも実習受け入れをお願いしたい。

委員長：保健医療福祉分野は実習を含めて、特に地域との関りが重要になっていると思う。地域連携の取組や特色の強化をはじめ在り方について更なる議論を進めてまいりたい。

(3) 公立大学の状況について 事務局より説明

委員：前回の会議で大学進学者数が減少の局面へ転換する推計などが示されるとともに、旭川大学の公立化など、名寄市立大学を取り巻く懸念材料が、社会保育学科が定員を割りこみ、志願状況に現れてしまったとの思いを強くしている。学生確保に向けた対応を急ぐ必要があると考える。事務局から他の公立大学の大学院設置や法人化の説明があったが、多くの大学が軒並みその方向に向かうのは、必然性があるからだと思う。大学院設置については協議を進めていると伺っているので、設置形態・法人化について議論すべき課題と考える。市長からの諮問では受験生から選ばれる大学として必要な取組、組織形態、改革などの意見を求められており、外部委員の役割として、大学内部ではなかなか議論が難しいと思われる組織形態、改革につながる法人化のメリット・デメリットを含め、外部委員として議論を尽くすべきである。この委員会で取り扱っていただきたい。

委員：大学内部の監査が特に厳しい状況にある点をご指摘いただいている。大学院設置については前学長や設置者が意向を示しており、これまでの経緯を引き継ぎ設置に向けた取組を始めている。設置形態については、設置者が議論の場を設け、外部の力も借りて検討する機会をいただいたことは、大変ありがたいが、そこではなく、どのようにいい大学をつくり発展していくのか議論する機会としていただければありがたい。公立大学の学長会議で、大学経営の難しさをお聞きすることもあるが、今のままの方がよい、今更検討するのかなど様々な意見をいただく。法人化されていない大学は数少ないのですが、茨城県立医療大は附属病院も同様に法人化する必要があり、多額の経費が必要になることから、法人化の議論を行ったが中止した事例もあり、慎重に議論する必要がある。若手の教員の中で直営大学だから来た方もいる。研究スパンが長い基礎研究をしている方は、研究成果を任期中に出すことが難しく、任期の縛りなく研究ができることが魅力となっている。学生にとって魅力ある大学はもちろんだが、教員確保も難しくなっていることから、教員にとって地方の大学に来る魅力も必要であるため、お知恵をいただきたい。

委員長：多くの大学の設置形態が法人化であるからといって必須というわけではないと思いますが、議論の結果法人化が必要と判断されていると思いますので、設置形態の議論は避けては通れないと考えております。次回、法人化のメリット・デメリット等についても、改めて議論していきたい。

4 そ の 他

委員：アンケートの主旨をしっかりと捉えて、今後の在り方を検討するにあたり、学生が何を求めているのか、教員ではなく数は少なくとも学生から意見を聞いてみる必要があるのではないか。多様な評価が必要と考える。

委員：市内の保育園・幼稚園は名寄市立大学卒業生が多く活躍している。しかし、市内の出生率が低下しており、市内の認定保育園・幼稚園・無認可保育園の定数を大幅に下回る状況にあり余剰が出てくる。特別支援教育が必要な子どもも増えている状況にある。そのような子ども達の大学での教育も考えていく必要がある。

委員：保育園・幼稚園教諭が足りないと言われているが、短大時代含め大学に保育学科があることで、他自治体より充足されている。給食施設においても、多くの管理栄養士は名寄市立大学卒業生である。名寄市立大学で特別支援教育に係る資格講座を実施していることは大変貴重なことである。

委員：在り方検討委員会の議論として、教育機関としての在り方、組織として設置形態の在り方、2つを分けて議論する必要がある。論点整理が必要である。

委員：アンケート調査結果は大変興味深い。受験生は研究に興味がある学生、学生生活・地域での活動を頑張りたい学生、就職先を意識している学生など様々であり、学生の声を取り上げていくことも重要である。大学は教育機関・研究機関として重要であり、魅力的な大学の在り方は様々な点が絡んでくると思う。論点整理をして、自分も発言していきたい。

事務局：次回は4月22日に委員会を開催し、文部科学省・中央教育審議会答申の内容や設置形態・法人化のメリットなどについて議論したい。必要に応じてオンライン参加にも対応したいと考えています。

5 閉 会

清水池委員長より閉会